ἁμαρτία
ハマルティア

知っておきたいキリスト教のことば （138）

罪 つみ

「あなたは罪人です」。そう言われて良い気持ちを持つ方は、あまりおられないのではないでしょうか。わたしも中学生の頃、教会に行き始めたときにしょっちゅうこの言葉を聞いて、違和感を覚えた記憶があります。

「罪」という言葉は聖書に多く登場します。新約聖書だけでも、動詞形で 43 回、名詞形で 173 回です。それだけキリスト教において「罪」という言葉は、重要だということです。

旧約聖書の中で「罪」とは、律法を守らないことでした。律法を守らないことで神さまを怒らせてしまうのですが、同時に儀式的に罪の赦しを受ける道も備えられていました。

聖書における最初の罪は、アダムが神さまに背き、木の実を食べたことに始まります。その時にアダムは神さまを避けて身を隠します。また神さまはアダムをエデンの園から追放します。このように罪は、神さまと人との間を引き裂くのです。

新約聖書の中では、人間の存在時代が罪であると書かれます。アダムによってもたらされた原罪によって、すべての人は例外なく罪の下にあるというのです。罪という言葉は、もともと「的外れ」という意味です。どうやっても神さまの方を向くことができない的外れなわたしたちは、罪に束縛されているのです。

神さまはわたしたちとの間にできたその深い溝を埋めるために、イエス様を遣わされました。イエス様はわたしたちの罪を背負い、わたしたち罪人の身代わりとなって十字架へと向かわれます。その血によって、わたしたちは贖われるのです。

わたしたちの内にある罪を見つめつつ、そのようなわたしたちをも愛してくださる神さまに感謝しましょう。

次回は「ディアスポラ」です。お楽しみに。

「アダムとエバ」
フーゴー・ファン・デル・グース
（1440～1482 年）

しかし、神に感謝します。あなたがたは、かつては罪の奴隷でしたが、今は伝えられた教えの規範を受け入れ、それに心から従うようになり、罪から解放され、義に仕えるようになりました。

（ローマの信徒への手紙 6 章 17～18 節）